

4.少年消防クラブ活動に参加して防災知識を身につけましょう！

少年消防クラブ活動に参加しませんか

消防庁防災課

地域の安心・安全のためには、小さな頃から防災意識を身につけることが重要です。少年消防クラブは、子どもの頃から火災予防や防災に関する知識を身につけ、各家庭や学校における火災の減少を図ることなどを目的として、少年少女が参加しているクラブです。

クラブ員である少年少女たちは、防火・防災や消防に関する知識の習得や、初期消火などの実践的な訓練、研究発表会、地域の防災イベントや啓発活動への参加、防災キャンプなどのイベントに参加することで、命や暮らしを守ることの大切さを学ぶとともに、防火思想の普及に努めています。平成21年5月1日現在、日本全国で5,095クラブ、約43万人のクラブ員たちが活発に活動しています。

少年消防クラブの活動内容はクラブによって異なりますが、例えば以下のような活動が行われています。

講習会・防災訓練等への参加

防災講習会や防災訓練などに参加し、地震などの自然災害が発生する仕組みを学習したり、消火器などを使った初期消火の方法、ロープワーク、三角巾を使用した応急手当の方法などを体験学習しています。

研究発表、ポスター作成

防火・防災に関する研究発表会を行い、その成果をまとめたレポートや防火ポスター、防火新聞等を校内に展示したり、各家庭に配布するなどして、火災予防や防火思想の普及に努めています。

防災まち歩き、防災マップ作り

クラブ員たちが自分たちのまちを実際に歩き、消火栓の場所や災害時の危険箇所などについて把握し、防災マップを作成することなどを通して、自分たちのまちに対する理解を深めています。

防火広報の実施

消防職員・消防団員とともに、地域の住民の方々に火災予防を呼びかけるため、火災予防運動実施期間や年末を中心に防火パトロールや防火パレードなどの防火広報活動を行っています。

防災キャンプ

夏休みなどを利用して、小学校の体育館や運動場、キャンプ場などに寝泊まりし、炊き出し、キャンプファイアなど普段できない活動を通して、仲間との連帯感を高めています。

少年消防クラブはこれまで、10歳から15歳までの少年少女を中心として編成されていましたが、少年消防クラブ活動で防火・防災を学んだクラブ員たちが、中学校卒業後も引き続き地域防災に貢献することが期待されていることを踏まえ、消防庁では、少年消防クラブの対象年齢を18歳まで拡大することなどを通して、こうした環境づくりを進めることとしています。

このような中、平成21年7月にチェコ共和国で開催された「ヨーロッパ青少年消防オリンピック」に、日本から初めて4少年消防クラブの中学生・高校生20名が日本代表として特別参加し、ホース延長やロープ結索などが取り入れられた消防障害物競技などの種目に挑戦するとともに、ヨーロッパ地域22か国の選手たちと国際交流を深めました。

少年消防クラブでの活動を通して火災予防や防災に関する知識や技術、強い防災意識を身につけたクラブ員たちが、将来、地域防災の担い手として社会に大きく貢献することが期待されています。



放水訓練をする少年消防クラブ員
(写真提供：札幌市消防局)



ヨーロッパ青少年消防オリンピックの様子
(手押しポンプによる放水)

総務省消防庁「消防の動き」2月号より

[▲ このページの上に戻る](#)

目次

- [1.平成21年（1月～9月）における火災の概要 – 総務省消防庁](#)
- [2.住宅用火災警報器の普及状況の推計結果 – 総務省消防庁](#)
- [3.消防庁が防災教材「チャレンジ！防災48」を作成しました](#)
- 4.少年消防クラブ活動に参加して防災知識を身につけましょう！
- [5.住宅用火災警報器を設置しましょう（その2）](#)
- [6.住宅用火災警報器の設置促進活動に対し「防災まちづくり大賞」受賞](#)
- [7.自主防災組織リーダー研修会（秋田）](#)
- [8.【幼少年活動】入間市消防少年団が消防出初式に参加ほか（見附、嶺北）](#)
- [9.【婦防活動】千葉県少年婦人防火委員会が婦人防火研修会を開催ほか（静岡、北見）](#)
- [10.危険物取扱者試験、消防設備士試験実施のお知らせ](#)
- [11.【日本防火協会】幼少年・婦防クラブ共催行事申請・自主防災組織リーダー研修会申請](#)